

Motette „Singet dem Herrn ein neues Lied“ BWV 225

モテット 主に向かって新しい歌をうたえ (二重合唱)

この作品はバロック期における二重合唱のためのモテットの最高傑作と言っても過言ではない。合唱を2群に分け応答と模倣による立体的な構成、言葉と音楽の見事な融合、フーガの躍動感のある展開、技巧的なメリスマ、生命力があふれたリズムなど Bach の繊細で豊かな想像力に圧倒される。全体的に器楽的な音型やフレーズが多い。Bach が楽長を務めていたトーマス教会の合唱団員は、楽器の奏法にも通じていて、両方を兼任していたに違いない。Bach の時代は歌と器楽が最も接近した時代であると思う。1727 年ライプツィヒで初演された。1789 年ライプツィヒを訪れた Mozart は、この曲と衝撃的な出会いをした。「まだ学ぶべきものがあったのか!」と驚嘆の声をあげたと言う。

第 I 部 „Singet dem Herrn ein neues Lied“

主に向かって新しい歌をうたえ

Singet dem Herrn ein neues Lied,

主に向かって新しい歌をうたえ

die Gemein(d)e der Heiligen sollen ihn loben.

聖徒たちは主を賛美すべきだ

Israel freue sich des, der ihn gemacht hat.

イスラエルよ、主に創られたことを喜べ

Die Kinder Zion sei'n fröhlich über ihrem Könige,

シオンの子供たちよ、自らの王を喜びとせよ

sie sollen loben seinen Namen im Reihen (Reigen);*

主の名を輪になって踊りながら賛美するのがよからう

mit Pauken und mit Harfen sollen sie ihm spielen.

太鼓とハープでもって主のために演奏しよう

(詩篇: 149,1-3)

* im Reihen

前置詞 im の後に女性名詞の複数形である Reihen は文法的に合わない。Reigen(中性名詞・単数) の間違いだと思われる。

第 1 コーラス

第 2 コーラス

Sin - get, sin - get, sin - get,

歓喜を持って新しい歌で、神を賛美しようと呼びかける。「歌え!」„Singet“のモチーフは2つの形態を持っている。4分音符で呼びかける形と、16分音符で喜びを表す音形である。第2コーラスのハーモニーの柱の周りを、第1コーラスの細かく生き生きとしたモチーフが絡みつく。2つ別々の要素を同時に表現する見事な書法である。「聖徒達は〜」„die Gemeine der Heiligen“〜からは、両コーラスの対話である。即興的にリズムを変奏したりテーマを担当する声部を変えたり、お互いの技を競い合っている様だ。「イスラエルも喜べ」„Israel freue sich“からは、同じ言葉を掛け合いながら進む。「シオンの子供たちは〜」„Die Kinder Zion“〜から、第1コーラスがフーガの主題提示とその展開を担当する。口短調ミサの„Cum Sancto Spiritu“のテーマとの類似がみられる。その活力あるリズムは隅々に沓え渡り、メリスマの歓喜の声がうねる様に疾走する。その一方で第2コーラスはフーガの背景に退き、冒頭部分を繰り返す。やがて両コーラスで今まで出てきたモチーフによるアンサンブルとなる。

バッハ
J.S.BACH

第Ⅱ部 „Wie sich ein Vater erbarmet“

父親がいたわる様に

コラール:合唱

アリア:ソリスト(四重唱)

Wie sich ein Vater erbarmet

父親がいたわる様に

über seine jungen kinderlein,

幼いわが子のことを

so tut der Herr uns allen(Armen),

主が私たち皆を憐れんで下さい

so wir ihn kindlich fürchten rein.

私たちは子供のように神を畏れ敬います

Er kennt das arm Gemächte,

神は我々が哀れな被造物であると御存じです

Gott weiß, wir sind nur Staub,

神は私たちが塵にすぎないことをお分かりです

gleich wie das Gras vom Rechen

それはまるで熊手でかき集められた草の様なもの

ein Blum und fallend Laub.

あるいは花や落ち葉(の様なもの)

Der Wind nur drüber wehet,

風がその上を吹き流れただけで

so ist es nicht mehr da,

そこにはもう何もなくなってしまう

also der Mensch vergehet,

それゆえ人間もその様に消え去ってゆく

sein End das ist ihm nah.

終りがその様に近づいてくる

Gott, nimm dich ferner unser an,

神よ、私たちをこれからずっと受け入れて下さい

denn ohne dich ists nichts getan

つまり(私達は)あなたなしでは何もできないのですから

mit allen unsern Sachen.

私たちが為す全てにおいて

Drum sei du unser Schirm und Licht,

だからこそあなたは私たちの守護であり光であって下さい

und trägt uns unsre Hoffnung nicht,

私たちの希望が揺らがない様に

so wirst du's ferner machen.

これからもあなたはその様にして下さい

Wohl dem , der sich nur steif und fest

幸せである。固くしっかりと

auf dich und deine Huld verläßt.

あなたとあなたの恩恵を信頼する人は

(Choral) (Aria) Gott, nimm dich fer - ner un - ser an,

Wie sich ein Vat'r er - bar - met

ルター派の伝統的なコラール J.Gramann 作「父親がいたわる様に」„Wie sich ein Vater erbarmet“ と、自由な宗教詩「神よ、私たちをこれからずっと受け入れて下さい」„Gott,nimm dich ferner unser an“ で構成されている。コラールは合唱で歌い、アリアは4人のソリストが歌う。信仰共同体である会衆が歌うコラールの中に、アリアという敬虔主義(=個人の内面的な心情に信仰の本質を置く)的な詩を挿入している。Textcollage(=テキストを種々の文章素材の組み合わせで作る)という手法。Bachの独創的なアイデアである。ソロとツェッティによるコンチェルトの形式で、ソロは常に同じ言葉を繰り返すが、歌い進めるうちに多彩に変奏して行く。

バッハ
J.S.BACH

第Ⅲ部 „Lobet den Herrn in seinen Taten“

主を賛美せよ そのみ業ゆえに



Lo - bet den Herrn in sei-nen Ta-ten,

Lobet den Herrn in seinen Taten

主を賛美せよ そのみ業ゆえに

lobet ihn in seiner großen Herrlichkeit

主を賛美せよ その偉大な栄光ゆえに

(詩篇:150,2)

この曲は二群のコーラスに独立性が与えられている。一方が呼びかけ、他方がエコーの様に答える。リズムやハーモニーを若干変化させて返答する。さらに先行のコーラスで歌い終わらない所を後続のコーラスで完結する。相手に与え、相手から貰い、自らを音楽的に成長させていく。高揚感が高まっていく。「賛美せよ」, lobet “のメリスマのモチーフは、様々に配置を変えて音楽を活性化する。次の部分へ切れ目なく、つながって行く。

第Ⅳ部 „Alles, was Odem hat,“

全ての息(生命)あるものは



Al - - - - - les,

Alles, was Odem hat, lobe den Herrn

全ての息(生命)あるものは 主を賛美せよ

Halleluja

ハレルヤ

(詩篇:150,6)

この曲で 2 群の合唱団が一つに合体する。快活に動き回るメリスマのフーガの主題は、バスから上声へと螺旋階段の様に渦を巻きながら上昇して行く。8分の3拍子の舞曲的なテーマが縦横無尽に交差する。「息」, Odem “がキーワードで、生きいきと音楽を呼吸させ、生命力のあるエネルギーを放射し続ける。最後は „halleluja “の賛美で終わる。